

## ★現代日本社会において「権威主義的パーソナリティ」はどこに見いだせるか？

合理的理由（※）なく、「上位者・強者」（※）に対しては従順で（たとえば「長いものには巻かれる」というように批判的精神がなく同調的で）、同時に「下位者・弱者」（※）に対しては強情で（支配的・攻撃的・偏見的で）あるような人間。

調子に乗って“弱い者イジメ”に荷担したり、あるいはイジメを傍観・放置する人間。

「下位者・弱者」に「勝」って「上位者・強者」の側にいなければ自信がもてない人間。

“タテ社会”の中で生きがいを感じる人間。…等々。

※たとえば「勉強するために先生の指導に従う」のは合理的理由がある

※「上位者・強者」の例：親・兄弟・先輩・先生・男・夫・上司・高学歴者・富裕者・大企業・政府・与党・先進国・イケメン・強靱者・白人・ドイツ人・「勝ち組」など

※「下位者・弱者」の例：子・弟妹・後輩・生徒・女・妻・部下・低学歴者・貧困者・小企業・庶民・野党・発展途上国・ブス・虚弱者・黒人・ユダヤ人・「負け組」など

その背景には、自分（と周囲の人々）が正しいと思っている生き方・価値観の他にも多様な生き方・価値観があることを理解せず、他人も常に自分と同じ価値観・生き方（＝競争など）をしていないと気がすまない“一元的価値観”あるいは“精神的未熟さ”が存在している。

その意味では、見方を変えれば、「タテ社会」の中でストレスを感じる人間（例：引きこもり）のほうが本当は正常だ」ということさえ言えるのかもしれない。

※その他、中根千枝『タテ社会の人間関係』、内藤朝雄『いじめの構造』、香山リカ『独裁入門』などがお勧め。